

# 経済・金融フラッシュ

No.07-159 2008/2/28

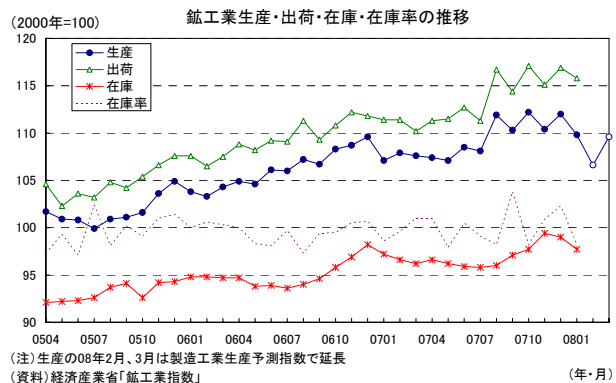
## 鋳工業生産 08年1月～輸出関連業種が大幅低下

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

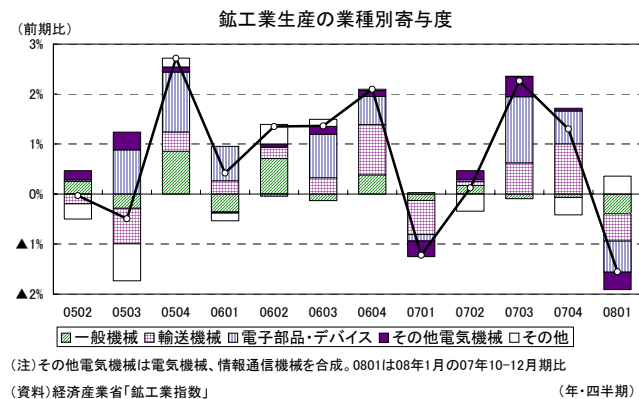
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 1月の生産は市場予想を大きく下回る

経済産業省が2月28日に公表した鋳工業指数によると、1月の鋳工業生産指数は前月比▲2.0%と2ヵ月ぶりの低下となり、事前の市場予想(ロイター集計:前月比▲0.8%、当社予想は▲0.7%)を大きく下回った。出荷指数は、前月比▲0.9%と2ヵ月ぶりの低下、在庫指数は前月比▲1.3%と2ヵ月連続の低下となった。



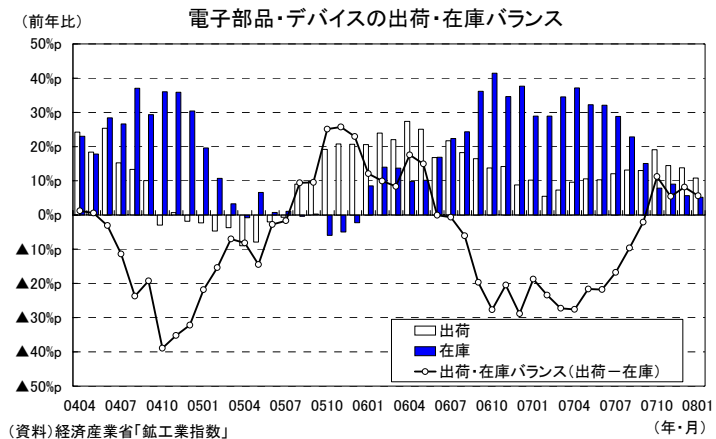
1月の生産を業種別に見ると、07年後半の生産を牽引していた輸送機械、電子部品・デバイスがそれぞれ前月比▲3.7%、▲3.5%の大幅低下となった。また、一般機械、電気機械、情報通信機械(それぞれ、前月比▲1.8%、▲4.1%、▲4.2%)など、輸出ウエイトの高い業種の落ち込みが特に目立っている。速報段階で公表される16業種中、14業種が前月比で低下(2業種が上昇)となった。



### 2. 1-3月期の減産はほぼ確実に

電子部品・デバイスの在庫指数は前月比▲1.0%と2ヵ月ぶりの低下となり、前年比でも5.2%と積み上がり幅が若干縮小した(12月:同5.6%)。出荷指数は前月比▲3.6%と3ヵ月連続の低下、前年比では10.8%の上昇(12月:同13.8%)となった。出荷・在庫バランス(出荷・前年比-在庫・前年比)は5.6%ポイントなり、12月の同8.1%ポイントからプラス幅が若干縮小した。電子部品・デバイスの在庫調整はいったん終了したと見られていたが、

これまで好調が続いてきた IT 関連財の輸出の伸びは頭打ちとなっており、これに伴い出荷指数は直近 3 ヶ月で▲5.8%の大幅低下となった。在庫の積み上がり幅自体は小さいため、大幅な調整に陥るリスクは低いと考えられるが、昨年後半のように生産の牽引役となることはしばらく期待できないだろう。



製造工業生産予測指数は、08年2月が前月比▲2.9%、3月が同2.8%となった。鉱工業生産指数の直近のピークは07年10月の112.2(季節調整値)だが、2月、3月が予測指数通りの伸びとなった場合、3月の生産指数は109.6にとどまる。最近の鉱工業生産の実績値が予測指数の伸びを下回る傾向が続いていることも考慮すれば、当面は10月のピークを超えることはできないだろう。

予測指数を業種別に見ると、輸出ウェイトの高い一般機械、輸送機械の減産計画が目立っている(一般機械:2月:▲4.0%、3月:▲3.7%、輸送機械:2月:▲0.3%、3月:▲2.3%)。1月の貿易統計では、輸出数量が前年比10.3%と堅調が維持されていたが、企業の慎重な生産計画は2月以降の輸出の減速を示唆するものとも考えられる。

1月の生産指数を、2月、3月の予測指数で先延ばしすると、08年1-3月期の生産指数は前期比▲2.5%の低下となる。1-3月期の鉱工業生産は4四半期ぶりの減産となる可能性が極めて高くなった。米国の景気低迷がより一層明確となる中、輸出がこれまでのような堅調を維持できるか、4-6月期の生産が持ち直しに向かうかが、今後の焦点となる。

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)